

第154回（令和元年 第3・第4四半期）
エイズ動向委員会 委員長コメント

【概要】

1. 今回の報告期間は、以下の約半年間
 - 令和元年第3四半期…令和元年7月1日～令和元年9月29日
(以下A、前年同時期を α とする)
 - 令和元年第4四半期…令和元年9月30日～令和元年12月29日
(以下B、前年同時期を β とする)
2. 新規HIV感染者報告数は(A) 217件及び(B) 246件 ((α)259件及び(β)236件)
3. 新規AIDS患者報告数は(A) 88件及び(B) 93件 ((α)104件及び(β)81件)
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は(A) 305件及び(B) 339件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが(A) 148件及び(B) 173件
(新規HIV感染者報告数の(A) 約68%及び(B) 約70%)
 - 異性間性的接触によるものが(A) 37件及び(B) 41件
(新規HIV感染者報告数の(A) 約17%及び(B) 約17%)
そのうち(A) は男性26件、女性11件 (B) は男性30件、女性11件
 - 静注薬物によるものは(A) 2件、(B) 0件
 - 母子感染によるものは(A) , (B) 共に0件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが(A) 55件及び(B) 50件
(新規AIDS患者報告数の(A) 約62%及び(B) 約53%)
 - 異性間性的接触によるものが(A) 9件及び(B) 13件
(新規AIDS患者報告数の(A) 約10%及び(B) 約14%)
そのうち(A) は男性7件、女性2件 (B) は男性12件、女性1件
 - 静注薬物によるものは(A) 1件及び(B) 0件
 - 母子感染によるものは(A) 1件、(B) 0件
 - 年齢別では、特に30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和元年7月～12月）】

1. 保健所におけるH I V抗体検査件数は (A) 25,108件及び (B) 26,920件
(前年同時期確定値(α) 22,734件及び(β) 31,001件)
自治体を実施する保健所以外の検査件数は (A) 8,638件及び (B) 8,934件
(前年同時期確定値(α) 7,917件及び(β) 9,470件)
2. 保健所等における相談件数は (A) 31,890件及び (B) 31,029件
(前年同時期確定値(α) 30,990件及び(β) 36,944件)

【献血の概況（平成31年1月～令和元年12月）】

1. 献血件数（速報値）は、4,859,253件（前年同時期4,707,951件）
2. そのうちH I V抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は38件（前年同時期38件）
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、0.782件（前年同時期0.807件）

《まとめ》

1. 今回報告された新規H I V感染者報告数は、前年同時期と比べ第3四半期は減少し、第4四半期は増加した。新規A I D S患者報告数についても、前年同時期と比べ第3四半期は減少し、第4四半期は増加した。
2. これまでと同様の傾向ではあるが、今回の新規H I V感染者は20～40代、新規A I D S患者は30～50代の報告数が多い。また、10歳代から70歳代までの新規H I V感染が報告されており、幅広い年齢層の報告がある。
3. 保健所等におけるH I V抗体検査件数は、第3四半期は前年同時期より増加したが、第4四半期は減少した。相談件数も同じく、第3四半期で前年同時期より増加し、第4四半期では減少した。
4. 早期発見は、個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、今後も保健所等における無料・匿名のH I V抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。

《令和元年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（速報値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和元年の約1年間
(平成31年1月1日～令和元年12月29日までの四半期ごとの合計)
2. 新規HIV感染者報告数は、891件（過去20年間で、14番目の報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、328件（過去20年間で、19番目の報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は 1,219件（過去20年間で、14番目の報告数）

【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが 639件（全HIV感染者報告数の約72%）
 - 異性間性的接触によるものが 136件（全HIV感染者報告数の約15%）
 - 静注薬物によるものは 2件
 - 母子感染によるものは 0件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが 176件（全AIDS患者報告数の約53%）
 - 異性間性的接触によるものが 55件（全AIDS患者報告数の約17%）
 - 静注薬物によるものは 1件
 - 母子感染によるものは 1件
 - 年齢別では、特に30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（平成31年1月～令和元年12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（速報値）は 141,902件（過去20年間で、5番目の件数）
2. 保健所等における相談件数（速報値）は 129,620件（過去20年間で、15番目の件数）

《まとめ》

1. 速報値ではあるが、令和元年の新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数は、平成30年より減少しており、3年連続での減少となった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血における10万件当たりの陽性件数は昨年と比べて同数であった。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を利用いただきたい。
4. 新規報告数全体に占めるAIDS患者報告数の割合は、依然として約3割のまま推移している。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくため、重要となる。国民の皆様には、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。